

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 1 月 16 日 (2020.1.16)

【公開番号】特開 2019-201678 (P2019-201678A)

【公開日】令和 1 年 11 月 28 日 (2019.11.28)

【年通号数】公開・登録公報 2019-048

【出願番号】特願 2018-96732 (P2018-96732)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 11 月 19 日 (2019.11.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

所定の遊技を実行可能な遊技機において、
遊技者の動作を検出可能な検出手段と、
遊技者に対する指示を実行する指示手段と、
演出実行手段と、を備え、

前記指示手段は、前記検出手段によって検出可能な遊技者の動作を促す第 1 指示と、前記検出手段によって検出不可能な遊技者の動作を促す第 2 指示と、を実行可能であり、

前記演出実行手段は、

前記指示手段によって前記第 1 指示が実行された場合は、前記検出手段の検出結果に基づいて演出を実行し、

前記指示手段によって前記第 2 指示が実行された場合は、前記検出手段の検出結果に関わらず所定タイミングで演出を実行可能である

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 1】

(手段 1) 本発明による遊技機は、所定の遊技を実行可能な遊技機において、遊技者の動作 (例えば、プッシュボタン 3 1 B への押下操作) を検出可能な検出手段 (例えば、プッシュセンサ 3 5 B) と、遊技者に対する指示を実行する指示手段 (例えば、演出制御用 CPU 1 2 0 における、ステップ 3 0 I W S 3 0 3, S 3 0 5, S 3 2 3, S 3 2 5 を実行する部分) と、演出実行手段 (例えば、演出制御用 CPU 1 2 0) と、を備え、指示手段は、検出手段によって検出可能な遊技者の動作を促す第 1 指示 (例えば、プッシュボタン 3 1 B への押下操作に対する指示) と、検出手段によって検出不可能な遊技者の動作を促す第 2 指示 (例えば、画像表示装置 5 の所定領域に手をかざす動作に対する指示) と、を実行可能であり (例えば、演出制御用 CPU 1 2 0 は、ステップ 3 0 I W S 3 0 3, S 3 2 3 を行うことにより第 1 指示を実行し、ステップ 3 0 I W S 3 0 5, S 3 2 5 を行う

ことにより第２指示を実行する)、演出実行手段は、指示手段によって第１指示が実行された場合は、検出手段の検出結果に基づいて演出を実行し(例えば、演出制御用ＣＰＵ１２０は、ステップ３０ＩＷＳ３０３を行った場合、ステップ３０ＩＷＳ３０９のＹであるときにステップ３０ＩＷＳ３１３を実行することによりセリフ演出を実行する。また、ステップ３０ＩＷＳ３２３を行った場合、ステップ３０ＩＷＳ３２９のＹであるときにステップ３０ＩＷＳ３３６を実行することにより役物落下演出を実行する)、指示手段によって第２指示が実行された場合は、検出手段の検出結果に関わらず所定タイミングで演出を実行可能である(例えば、演出制御用ＣＰＵ１２０は、ステップ３０ＩＷＳ３０５を行った場合、プッシュセンサ３５Ｂによってプッシュボタン３１Ｂへの操作が検出されるか否かにかかわらず、所定期間経過後にステップ３０ＩＷＳ３１３を実行することによりセリフ演出を実行する。また、ステップ３０ＩＷＳ３２５を行った場合、プッシュセンサ３５Ｂによってプッシュボタン３１Ｂへの操作が検出されるか否かにかかわらず、所定期間経過後にステップ３０ＩＷＳ３３６を実行することにより役物落下演出を実行する。)ことを特徴とする。そのような構成によれば、演出効果を高めることができる。